

第1回 市民と市長の「語ろう会」

報告書（要点）

日 時：令和6年6月27日（木）午後3時15分から4時30分まで

会 場：市役所 西棟4階 412会議室

テーマ：「コミュニティの現状と課題について」

出席者：各コミュニティ協議会の代表 16名、傍聴 10名

市長、市民活動担当部長、市民活動推進課長

1 開会

自己紹介

2 意見交換

（人材の育成・確保に向けての取組み）

- ・ 役員の年齢層が二分化しているが、コロナが明け、イベントが増えてきたので、活動とおして若い方へ声をかけるなど、少しずつつながりを広げていきたい。
- ・ 改修工事のための休館中に運営委員や協力員が離れないよう、人のつながりを大事にしていきたいと思っている。新しい人にも入ってもらわないと続かないので、その声掛けは課題となっている。
- ・ 中心で活動している役員は70代以上が中心になっている。仕事をリタイアした60代あたりの世代が運営に入っただけだとよい。
- ・ 窓口当番のなり手が少ない原因の1つに窓口手当が少ないことがあげられる。
- ・ 運営委員の高齢化が課題。窓口業務の定年延長をしても、なお人手不足。コミセンだよりなどで広報するが、チラシを配るなどの協力員は増えても、運営委員や窓口当番はなかなかいない。
- ・ コミセンまつりなどの大きな行事でもだんだん協力員が減っており、市内の大学に声をかけて学生ボランティアの募集を始めた。
- ・ 子どもが小学生のときに放課後の見守りもできるということで、コミセンに携わるようになった。子どもが大きくなるにつれ、教育費など出費も多くなるため、仕事を増やさなければならず、制限がある中で、コミセンの活動を行っている。若い世代は、コミセン活動に興味があっても働かなければいけないという実情もある。
- ・ 若いママさんに、ターゲットを絞って、声かけをしている。親同士のつながりを持つことで学校の情報がよくわかったり、卒業後もつながりが途切れないというメリットがある。一方、手当が低いため、声をかけても考えてもらえないという実情もある。
- ・ コミセンに関わることで、地域や武蔵野市のことを知ることができるという意味で、コミュニティの活動はとても重要だと思う。地域と関わりを持ちたいと思っている人はそれなりにいると思う。年齢・性別問わず多くの方に関わっていただくためには、窓口当番については今の手当ではなかなか難しいと思う。活動としては、やりがいがあるので、続けていきたい。
- ・ 改修工事を予定しているが、運営委員が高齢化しており、改修に向けての荷物の整理や移動などに苦勞している。若い人は、土日であれば手伝うという方が多く、平日の窓口当番をできる人は70代以上がほとんど。70代を過ぎてから新しく入ってこられた方に

窓口業務を教えるのもなかなか大変である。

- 年齢性別の比率が高齢女性に偏っており、会社勤めの経験がない方が多い。窓口業務は、極端に言えば誰でもできることが多いが、若い人にとっては報酬が低くてモチベーションは上がらないと思う。高齢者からはあまり手当の不満は聞かないが、ボランティア精神がある人ばかりではない。give and take ならばよいが、役員としての責任だけ生じて得るものがなければ、hesitate（躊躇）する人が多い。
団塊の世代である70代に年齢が偏っていると、この世代が80代になった時に、運営がかなり厳しくなると思っている。
- 広報のおかげで新しい人が入る率が高いが、退職後70代から入ってこられる方が大半で、親くらいの世代をまとめていくのは大変ではある。
窓口当番よりも、役員や事業の運営などの仕事がボランティアでやるには重すぎるとよく言われる。自分がやりたいことをやるのがボランティアであるはずだが、義務としてやらされるのは納得がいかないと辞めていく方もいる。
- コロナが明けておまつりなどにも人が多く集まりにぎやかになってきた。その場かぎり楽しんで帰るようなイベントには人が集まるけれど、つながりを求める人は少なくなっているように感じる。以前は夜間に親の集まりなどもよくあったが、最近はそのような部屋の利用が少なくなった。
- 若い運営委員の中で、コミセン業務が効率的ではないことにストレスを感じるとの話を聞いた。効率や合理性を求めると高齢者や弱者に寄り添う地域コミュニティではなくなる心配があり、今までどおりのやり方を守ってきたところもあるが、若い人にどんどん入ってもらうためには、新しいことにチャレンジしていくことも必要なかと思う。
- コミセンの運営には、パソコンの使用が不可欠だが、パソコン作業が苦手という理由で係のなり手がいないということもある。こうした作業面で市職員に補佐してもらえるとありがたい。
- 社会的環境の変化に応じたコミュニティ管理運営が必要不可欠。少子高齢化、非婚化の中で運営のなり手が極小化していく危機感を持っている。そこで、地域のポテンシャルに応じたコミュニティセンターのあり方を地域ごとに考えていくべき。
例えば、公的建物では営利事業は認めていないが、その地域の地元サービスに寄与するものであれば、門戸を広げてもいいのではないか。そうすることによって、運営委員のなり手の裾野も広がると考える。
また、運営委員の1人あたりの担当の時間を、4時間から2時間に変えると、以前よりなり手が増えた。ただし、時間帯によっては人数の確保に苦慮している。各コミセンの実情に合わせ、地域のポテンシャルに合ったコミュニティ運営をしていく時代がきてるのかと思う。
- 窓口に来ないと予約できないのは、いささか時代遅れと思う。市として、全体のオンライン予約システムを構築していただきたい。
- 事業を主催して、地域の人とコミュニケーションをとりたいという人はいるけれども、運営側に入ってお世話をしようかという人はなかなかいない。ボランティアであり、報酬を目当てにしてやるものではないと伝えているが、やはり、窓口当番を有償アルバイトと考えて問い合わせしてくる人が多く、金額を聞くと皆やめていく。
- 吉祥寺駅に近く、周囲は商業地域である。大きいマンションなどはたくさんあるが、地域住民でコミセンの活動に参加する人はほとんどいない。運営委員は少ないが、駅から

近いので、貸室として期待されることは非常に多い。利用者の9割は市外の方の利用になっており、運営している我々にとっては、地域のコミセンって何なのか考えてしまう。利用者の9割が他市の方だが、コミセンには福祉や防災、その他の活動でも市からいろいろな役割が期待され、業務が下りてくる。活動の幅はさらに増えている。

運営委員は70代がメインだが、災害時の運営や高齢者の見守りなど負担が重い。現在は、運営委員が少なくても、仲良く楽しくやっているが、いざという時の責任を考えると我々も戸惑うので、誰でも参加できると呼びかけながらも、入ってくる人には、良く説明するようにしている。

- 運営委員は30名ほどいる。地域性もあるが、皆若いときからコミセンに携わり、ボランティア意識が高く、コミセンに限らず多方面で活躍されている方ばかり。密な近所つき合いが良い点だが、皆高齢化しており、新しい人がなかなか入らない。後から入ると疎外感を持つようだ。
- 何十年も住んでる住人は、地元貢献するのが当たり前という意識があったが、若い人は時間単位で割り切って考える人が多い。最近はパソコン仕事や期限に追われるような仕事も多く、仕事ができる人ほど負担が大きくなっている。手当が仕事量に見合わないと考える人も多く、善意に期待する時代ではなくなっている。コミセン自体を抜本的に見直す機会に来ているのではないか。
- 武蔵野市にとって、コミュニティ施策やコミュニティセンターの役割を誇るべきもの、自慢すべきものと位置付けられているのか。
コミュニティセンターは50年近く前に生まれ、全国から視察が来るなど注目され、その後は各地域の協議会に預けられた。初期に関わってきた人たちは自分たちがコミュニティセンターを設立し、一から作り上げたので、運営にも一生懸命取り組んでいるが、これからの担い手は生まれる前からコミセンがあるような世代。なおかつ、専業主婦も少なくなり、地元商店も少なくなり、昼間働ける人は少なくなっている。そのような中で、やれる人が頑張っているのが現状である。今頑張っている人は、コミセンの魅力をなくしてはいけないと思うからなので、開設から50年経った今、半世紀生き延びたコミュニティを再評価し、アピールしなければならぬ。地域の活動として一定の水準は保つべきだが、コミセンに関わることが難行苦行になったら終わり。子どもは褒められて育つというように、我々も褒めてほしい。コミセンの活動の意義を市民にアピールし、評価してもらうことで運営側の気概にもなると思う。
- 私は地元のPTAの先輩に誘われて運営委員になった。地域のことを知ることができ、地域の人とつながりを持てることから、他の方たちも集ってきていると思う。一方、運営に携わってみて、あまりにも効率的でないことに驚き、ファイルの整理や片付けなどを行い、役員の入替わりもあり、少ない人数でも運営が続けられるように改善してきた。窓口当番以外の業務に多くの時間をとられているにもかかわらず、ボランティアで運営されているという認知度が低いことは残念。市からの広報を切に希望する。
- 高齢化が一番の課題だが、窓口手当について問題になったことは一度もない。基本的にボランティアだけれども、窓口当番は一定時間拘束されるので、少し手当が出ると伝えると皆納得されている。それよりも、パソコンができないことが課題である。

(災害時地域支え合いステーションについて)

- 市の防災計画の中でコミセンを支え合いステーションにし、学校避難所と連携して開設

することとなっている。開設の手引きもちゃんとあるが、それを見ながら、自分たちの役割を時系列で追っていくと、現状では地域のマンパワーが徹底的に不足しており、手引き通りには動けない。そのため、今はできることとできないこと、どこと一緒にやるのかという整理をしている段階。地域の防災関係の横の連絡を取り合うような繋がり作りに努めている。例えば、ある人は2つの学校避難所の開設員になっている。一人何役もやっていると、発災時、どちらに先に行くのか。書類上整っていても、現実できないことがたくさんある。

- 確かに地域の中で何役もやっている人が多い。本当に災害が起こった時にどの立場で動くのか戸惑う人も多いと思う。普通の主婦にそんなことできないと考える人もいる。

(市長) 支え合いステーションは、地域防災計画にも載っている大事な要素である。

これから皆様のご意見を伺いながら、できるだけ皆様にご負担かけないような形で、しかし、しっかりとした機能を持たせるために、やっていかなければと思う。

- 支え合いステーション開設時に初動要員の方をコミセンに配置できないか。やはり何かの責任を負うことはボランティアでは最終判断ができないので、初動要員が来てくれると心強い。

(市長) 初動要員が、各小学校区域に7～8人いるが、すぐには行けない。支え合いステーションは、避難所を補完するところであり、発災時、館内にいる人をまず安全に帰宅させ、コミセンを閉めて、支え合いステーションを開設する必要があるので、日頃から訓練しないと難しい。貴重な意見をいただいたので、そういった要素が入れられるか防災担当と連携して確認したい。

(窓口当番手当について)

- コミセンの窓口手当は平成10年から上がっていない。沖縄の最低賃金より低い。手当の額を決める際に何らかの指標があるほうが説明しやすいのではないか。
- さまざまな経験を持つ幅広い年齢層の方が関わることによって、強力な地域づくりを目指すためには、せめて1000円ぐらいの手当があるほうが誘いやすくなる。5～10年に1度、コミセンの手当を見直す機会を作してほしい。
- 補助金のうちの消耗品費なども、物価が上がっているので、考えていただきたい。

(オンライン予約について)

- 16 コミセンそれぞれ独立性があり、地域の特性もある。積極的に市内外の人たちに利用してほしいが、それぞれのコミュニティの成り立ちがあり、その地域の人に優先権を出している。オンラインで誰でも予約できるようになったら、地元の高齢者は誰も取れなくなるだろう。
- コミセン地域の住民は2か月前から予約ができて、それ以外の住民は1か月前からというように地元に対する優先権があるところが多い。コロナが明けて、利用者の範囲が圧倒的に広がり、毎日のように抽選をしている。コミセンを利用する市民のサイドから見ると、遠方からわざわざ予約に行っても抽選で負けて帰るのでは、なぜオンラインでできないのかと言われるのもわかる。
- 16のコミュニティでそれぞれ自主三原則にのっとり地域の人たちが地域のために運営していくというのがコミュニティの良いところだが、一方で市内すべてのコミセンを平等に使えないのはおかしいじゃないかという市民とのずれをどう調整するかは問題。

- ・ 開かれたコミセンにしたい気持ちはあるが、それを支える地域のコミュニティの人たちに何らかの見返りは必要。運営は地元の人で使うのはよその人ということには同意できないだろう。
 - ・ 武蔵野のコミュニティ施策は高い理想が具現化されていると思うが、社会情勢の変化に合わせてどうするのか。極端なことを言うと、16 コミセンを8つぐらいに集約して合理的に運営すれば、ひょっとしたら利用者は喜ぶかもしれないが、地域のコミュニティはなくなる。そういった見地からコミュニティを再評価した上で新しいものを構築する方向に向かってほしい。
 - ・ 予約を取りにくる人に、IDを見せてとはなかなか言えない。かつては利用者のうち3割は地元の人でなければならないなどのローカルルールを作っているコミセンもあったが、今は予約申請をする人が、在住あるいは在勤・在学であればよいことになっている。予約者が市民であれば、予約者以外が全員市外であっても、市民が主催する活動を武蔵野市で行うことは決して駄目ではない。一方で住民主体で主権をもって運営することと利用者の広がりとのすり合わせが必要と考える。
- (市長) 確かにコミュニティ構想ができた昭和46年の頃から比べると、日本も相当変わっている。協議会を立ち上げ、コミセンを設立してきた高い志によってコミセンが運営されてきたが、だんだん年数が経ち、時代とともに価値観も当然変化する。ただ武蔵野市の場合は小学校単位や中学校単位と同じレベルでコミセン単位のコミュニティのあり方があるのも事実なので、そういうところは守っていきたい。誰もを受け入れるばかりではなく、地域性はあったほうがよいと思う。

3 閉会